

Do・Check			Action		
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成度	達成状況についての説明	学校・園の現状・実態	
福岡市の教育モデルとなるような魅力ある学校	黙々掃除を実施する。中学校においては点検活動と掃除後の反省活動を徹底する。	B	○清掃・・・校内評価94%達成。取り組みとしては学年縦割り組織での清掃,反省会の充実で向上を図った。 ○授業・体験学習による共有・・・校内評価小7割,中6割 取り組みとしては発達段階に合わせてゲストティーチャーの招聘を全学年において計画,実施。学習内容の充実を図った。 ○キャリア教育の推進・・・校内評価81%達成。小中9カ年での実施を確認し内容を共有。来年度A事業に向け研修を進めた。 ○自尊感情・規範意識の高揚・・・校内評価73%達成。学級力アンケートの生徒の回答も同様に約7割の達成となった。行事運営や,教育活動全般での発信する場面を増やす取り組みを実施した。	○共有は小学校は外部人材の活用にかけており,実績がある。中学校は黙々清掃の活動を軌道に乗せている。このような異なる長所を活かして,取組の共有を進めている。キャリア教育は発達段階ごとに少し質問を変えた小中共通様式の用紙に自己評価を積み上げる仕組みをつかった。自尊感情などの高揚は学校行事や総合的な学習の時間での生徒の活動などからは積極性を見取ることができた。 ○教科の学力については小学校から中学校へやや低下傾向がある。小中ともに授業が成り立たないなどの学習環境の乱れはなく,教具の準備にも特別な問題はない。家庭学習は最低限の課題を与え取組について助言したことは効果があった。専科指導は,理科の5,6年全単元,4年の一部の単元で専科教員による専門的指導を行った。また,4,5年の算数では担任と専科教員で工夫して指導に当たることができた。ただし,中学校では家庭学習時間が短いことや授業においても積極的な発言が少ないという課題がある。合同研修会は体育会前に実施し,年度が始まり学級担任の生徒理解が進んだ段階で設定して効果が高まった。 ○いじめについては深刻な問題に発展する以前に児童生徒自身から状況について相談があり,教師との信頼関係構築はできている。アンケート結果をもとに児童生徒理解を深め,児童生徒の困り感に寄り添う指導につながったことが信頼関係構築の一助となった。児童生徒は熱心に委員会活動に取り組んでいるが,自主性が高いとは言えない。そのため,児童会生徒会へは指示やスケジュール伝達を早めに行なった。これにより,自立的な活動が進んだ。児童会と生徒会とが図書館運営を共同で行おうという意見が出てきている。合同会議はA事業に向けた共有,不登校減少などの視点で実施。行事については相互に予定を確認し調整を行うなどの工夫を行った。	
	行政,企業,地域,PTAと協働した授業・体験学習による共有を行う	B			
	「やり抜く力,生き抜く力」を身につけるためのキャリア教育の推進を行う。	B			
	学級力アンケートによる自尊感情・規範意識の項目に対する肯定的回答をする子どもの割合80%以上	C			
小中連携教育を中心に据えた教育力の充実	・自学ノートを活用した家庭学習の毎日の実施(提出率90%以上)と,担任による点検,助言を行う。	B	○家庭学習・・・校内評価85%達成。自学ノートの提出率は達成した。学年が進むごとに提出状況や個人々の取組にばらつきが出る傾向である。 ○指導方法の工夫改善・・・校内評価83%達成。主体的な学習につながる対話や課題設定を位置づけた授業を小中共通して実践。専科指導なども工夫して行うことができた。 ○合同研修会・・・児童生徒理解を小中の垣根を越えて進めることができた。不登校対応教員が,小中それぞれの生徒指導委員会に参加,小学校の授業にも入り児童生徒理解の架け橋となった。 ○各調査の結果・・・全国学力・学習状況調査では中学校の1科目のみ平均をやや下回った。授業改善の実践への校内評価は81%の達成であった。	課題	今後の改善方策
	学方向上につなげる指導方法の工夫改善(専科指導,少人数指導,習熟度学習,「主体的対話的な深い学び」を育てる学習)	B			
	・小中全職員による合同研修会において,児童生徒に関する情報交換及び情報共有を行い,指導方法について協議する。	B			
	全国学力・学習状況調査・福岡市学習定着度調査等で全教科平均以上の成績を達成する。	C			
不登校生徒の減少の取組推進強化を図る。	・QUアンケート,いじめアンケート(毎月)を実施・検証を行い,小中学年を超えて指導に生かす。	B	○各アンケートの指導への活用・・・校内評価90%達成。いじめアンケートは毎月実施した。無記名,封筒を添えて記名など,実施の方法を工夫した。 ○いじめゼロ・・・「素舞るあいさつ」と銘打ち,ありのままの自分で,笑顔で交わすあいさつをテーマに朝の登校時に小学校児童会・中学校生徒会が中心になって連携してあいさつ運動を実施した。また,良いところを見つけ合う活動を行い,子どもたちの自尊感情を高めていじめのない風土づくりにつなげた。 ○小中合同会議・・・キャリア会議を月に一度行った。生徒指導については不登校対応教員を中心に情報共有を進め家庭訪問も行った。	小中連携の推進	清掃や遅刻指導などの生徒指導については中学校から小学校へ。外部や地域人材の活用,道徳科の指導については小学校から中学校へと,それぞれのノウハウを共有し小中連携の推進を図りたい。また,A事業を控え,9カ年を見越したキャリア教育の推進についてもさらなる連携を図りたい。
	・生徒会児童会を中心にいじめゼロサミットの参加,いじめゼロの取組(年1回)の実施。	B			
	・生徒会・児童会・部活動を活性化し,魅力ある学校づくりを図る。	B			
	・小中連携を図るための合同会議の開催や家庭訪問の実施。	B			
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			学力の向上	小中ともに,自ら学びに向かう姿勢を育むための授業改善を推進したい。そのために校内研究で確認している内容の実践を進める。学力についての各調査の結果で平均と同程度の中学校では,特に,基礎的基本的学習内容の定着に向けた舞タイムと呼んでいる帯時間の充実と家庭学習指導のさらなる充実が求められる。	
○あいさつについて・・・あいさつは大切である。しっかり指導していく必要がある。そのため日頃から気にかけている。朝のあいさつについては,中学生はほぼ気持ちの良いあいさつをしている。小学校はこちらから声をかけるとあいさつを返してくれる。タッチをしてくる児童もいる。学校の様子などを尋ねると,小中学生に関わらず応答してくれる。登校中の見守り,青パトでの巡回等行っている際に,見かけたり接したりする児童生徒の姿は登下校の歩き方等のマナーも含めて望ましいものである。 ○清掃について・・・床に膝をついてしっかりと床拭きをしている姿がすばらしい。幼少の頃に母や祖母が言ってくれていたことが思い出され,自分の心を磨いている姿だと思うので良き伝統として受け継がせたい。 ○児童生徒に対する職員の指導や関わり方・・・何事についても,先生方が一生懸命に取り組んでいただいていることに感謝している。具体例として土曜日授業の様子などからも,小学校も中学校も1年生が入学時からすくなく成長していると感じ,うれしく思う。立志式の2年生は,2年生80名弱に対して学校の先生になりたいと発表する生徒が多いことが印象的だった。先生方の日頃の接し方,指導が良いからだろう。勉強だけでなく精神的な部分に対しても,細やかに見てもらっている成果だろう。安心していい。 ○学力向上や,自尊感情の高揚に関して校内評価がCだった点について・・・今年Cの評価が全てB以上になるといい。 ○地域行事への出席について・・・舞鶴小・中の校区には3地区あるが,それぞれの地域行事にも先生方が熱心に参加してくださることに感謝している。地域と良好な連携をはかることができている。			不登校児童生徒の減少	自分で考え行動する児童生徒の育成に向けたさらなる取組を行うことにより,生徒の自尊感情や自己有用感を高め,不登校児童生徒の減少につなげる。そのために,教育活動全体を通して道徳や日々の授業改善に取り組む。委員会活動など児童生徒の自立的な活動の場面を通して,粘り強さやたくましさ,自他のよさを認め合える児童生徒の育成を進める。	